

知ってたらちょっと得かも 公的保険 公的年金

社会保険労務士 坂下 留美

年金を安心して受け取るために3

年金とは国が国民に対して「保険料を納めてくれたら、困ったとき支えますよ。」と約束した制度です。長い人生の中で健康状態が悪くなったり、家族の不幸があったりした時に収入が得られなくなったら「年金」制度のなかで生活費を出しましょう！ということです。

例えば

※ 「明日食べるお米がない！」こういう場合は生活保護で救います。税金で賄います。

生活できなくなってしまった人を助ける制度です。

年金とはこのような事態にならないように「明日食べるお米を確保しよう。」という制度。各自が負担する保険料で支えあいます。

生活保護を受ける状態になることを防ぐための制度として年金を考えるとスッキリします。

老齢年金について

年をとって働けなくなった場合「老齢年金」を受け取ることになります。どんな人でも必ず年をとり働けなくなる日がきます。そのときの為の保険ですね。

老齢基礎年金

老齢年金の土台は「老齢基礎年金」です。この老齢基礎年金は、年金制度に加入していた20歳から60歳の期間、すべての期間で保険料を納付していると65歳から年間で約80万円（平成18年度 792100円）を受け取ることができます。この金額がフルペンションです。

老齢厚生年金

土台の部分に厚生年金（共済年金）に加入していた期間が2階部分としてのつかります。厚生年金は就職した時点から加入できますので16歳から加入されている方もいます。もちろん、会社勤めをされずに自営業をずっとされてきた方、主婦として家庭に入られていた方はこの部分がありません。保険料は加入したときから退職するまで（最長70歳）納めることとなります。老齢基礎年金と違い、お給料に対して保険料を割合で納めるため、給料が高い人ほど保険料は高く、将来受け取る年金額も高くなります。老齢厚生年金も65歳からの受給となります。

まとめ

- ・ 「老齢」年金は、老齢基礎年金に老齢厚生年金がのっかっている。
- ・ 老齢厚生年金は高いお給料をもらっている人ほど支払う保険料も高く、受け取る年金額も高い。
- ・ 老齢基礎年金、老齢厚生年金とも65歳からの受給である。

「うちの母は60歳からもらっているよ。」「テレビで年金受給開始年齢がひきあげられるって

言ってたよ。」という声がきこえてきます。これは「特別厚生年金」と呼ばれるものです。次回このお話をしたいと思います。よろしくお願ひします。